

●ISU 通知 1207 (2003.04.16)

フィギュアスケート・アイスダンスの新ジャッジングシステム

3月30日から4月1日にワシントンで開かれた理事会で、新ジャッジングシステムの開発を委任された特別委員会から現状報告を受けた。各技術委員会にも支えられたこの報告は肯定的な意見に基づいており、理事会は次のような決定をした。

1. 理事会は、選手権大会で常時用いることを考慮に入れた長期にわたる正式な決定のためには、意味のある適用が必要だという結論を出した。その結果、新ジャッジングシステムを公式のジャッジングシステムとして次の国際競技会で用いることを決定した。
 - i. ネーベルホルントロフィ(ドイツ・オベルスドルフ、2003年9月3～7日)
 - ii. 2003-04 グランプリシリーズを構成している6つの個別の大会
 - iii. グランプリファイナル(アメリカ・コロラドスプリングス、2003年12月12～14日)

2. ISU 規定 121 条 3 項の主な基準は、後に詳細を付加した。付録で説明しているこれらの詳細は、いくつもの国や種目のフィギュアスケート専門家から成る献身的なグループの、熱心な努力によって準備された。特別委員会を構成しているのは、アレクサンダー・レイカニック(ロシア、ISU フィギュアスケート技術委員長)、アン・ショー(カナダ、ISU アイスダンス技術委員)、マリー・ランドマーク(フィンランド、ISU 理事、前 ISU シンクロナイズドスケートティング技術委員)、テッド・バートン(カナダ、ISU ビデオ技術顧問、元フィギュアスケート選手・コーチ)、ペーター・クリック(ドイツ、ISU 大会顧問、元フィギュアスケート選手)、アンドレ・シガードソン(ドイツ、ソフトエンジニア、元フィギュアスケート選手)です。また協力者として、各技術委員会や多くのコーチ、ジャッジ、選手、さらに、いくつものテストや会議に参加した統計学やソフトプログラム、ビデオ技術の分野の専門家がいます。
 - i. 121 条 3 項(a): 適用する「基準値」(要素の基礎点)と「演技点」(質に対する評価)は付録 A で定義されている。付加する5つのプログラム構成要素(スケート技術、要素のつなぎ、演技力、振付け、曲の解釈)は付録 B で定義されている。
 - ii. 121 条 3 項(c): ISU 加盟国は 2003 年 4 月 30 日までに、付録 C に従って、訓練を受けるべき 2003-04 シーズンのジャッジを推薦する申込書を送るよう要請されている。付録にあるリストは、上の項目 1. で示した試合で臨時に要求されるジャッジの数から成っている。加盟国ごとのジャッジの数は、2003 ネーベルホルントロフィと 2003-04 グランプリ大会でエントリーが予想される選手の数を表した統計表に基づいている。

ISU は、ヨーロッパで2つの、「四大陸圏」で1つの教育セミナーを開催する。また、自習用も含めて、必要な教材は利用できるようにする。

 - iii. 121 条 3 項(d)(e): 地理的な地域を代表した資格のある国際審判のリストは徐々にしか出来ない。結果として、上の項目 1. で示した試合においてそのリストは 2002-03 シーズンと同じ基準に従って決め、地理的な地域に基づいて審判団

の選出と構成を無作為抽出で行うことはまだしない。そのように地理的な地域に基づいて、資格のある国際審判のリストから無作為に抽出することは、十分な数のジャッジが訓練されて初めて、すなわち 2004-05 シーズンに、2004 総会によって各規則が確認されることを条件に、できることだ。しかしながら、項目 2.ii に従って訓練するよう加盟国が推薦したジャッジで、この訓練をうまく終えたジャッジだけが、上の項目 1. で示した試合で務めると考えることができる。

示した試合を運営するよう要求される他の重要な役員(審判)、すなわち付録 D で定義されている「テクニカル・レフェリー」「テクニカル・ジャッジ」「イベントレフェリー」は、ISU 会長によって任命される。「ジャッジズコーディネーター」は、競技に先立って各ジャッジ団から選ばれる。

- iv. 121 条 3 項 (f)： 後のシステムでは、どのジャッジの得点を結果に使うかを、秘密かつ無作為に抽出することを要請する。
 - 8 人以上の審判団： 5 人が結果に抽出される
 - 10 人以上の審判団： 7 人が結果に抽出される
 - 12 人以上 14 人以内の審判団： 9 人が結果に抽出される
- v. 121 条 3 項 (h) (i)： 算定の方法は付録 E で説明されているようにする。
- vi. 121 条 3 項 (j)： 適切な「ウェルバランスプログラム」は付録 F で定義されている。アイスダンスについては、別の ISU 通知をこの後間もなく出す。
- vii. 121 条 3 項 (k) (m) (n)： イベントレビューミーティングとジャッジに対する評価の方法は、ISU 通知 1197 にある原理を適用する。しかし、2003-04 シーズンが始まるまでには、新ジャッジングシステムがより深く分析される可能性を考慮に入れ、最新の通知を発行する。
- viii. 121 条 3 項 (o)： ジャッジに対する報酬は、この期間は現在の規定と方法に従う。
- ix. 121 条 3 項 (p)： 2004 総会の議題として、基礎的な研究や実地試験、競技への適用を基に考え出された技術的規則を、各特別規定に加えることが提案されるだろう。
- x. ISU 理事会は、新しい経験によってこの通知で発表している方法を修正するのが望ましいとなれば、そうするかもしれない。修正については ISU 通知を発行する。

3. シンクロナイズドスケーティングについては、いずれ ISU 通知を発行する。

付録 A: 配点表

(配点表については[こちら](#)で。)

付録 B: プログラム構成要素の定義

スケート技術

定義: リンク上を移動するために用いた方法。

目的: スピード、流れ、エッジの質に関連した動きの効率を評価する。

- 基準:
- 全体のスケータリングの質
 - 多方向へのスケータリング
 - スピードとパワー
 - エッジのきれいさと確実さ(アイスダンスではステップとエッジ)
 - 滑りと流れ
 - エッジの深さと質(アイスダンス)
 - パートナーの能力とのバランス(アイスダンス、ペア)

要素のつなぎ

定義: プログラムのハイライトをつなぐスケータリングステップ・要素。

目的: プログラムのハイライトをつないだりその価値を高めることによって、要素が孤立せずにプログラムの一部をなすような、いろいろなステップや動き、要素を評価する。

- 基準:
- 要素をつなぐステップの難しさと質
 - 要素をつなぐステップの創造性と独創性(アイスダンスでは振付けに含まれる)
 - 要素の入り方と出方の独創性と難しさ
 - パターン(アイスダンス)
 - パートナーとの運動量のバランス(アイスダンス)
 - ダンスフットワークやダンスホールド、つなぎの動きの難しさと多様さ(アイスダンス)

演技力

定義: 選手が意識して体の外に映し出している感じのよさ。

目的: 体の線や身のこなし、要素のハイライトを表現する際のバランスを評価する。

- 基準:
- 身のこなし
 - スタイル
 - 姿勢
 - スピードの変化
 - ユニゾン(アイスダンス、ペア)
 - パートナーとの間の演技のバランス(アイスダンス)

振付け

定義: 要素やそれらをつなぐステップに関連したプログラムのレイアウト。プログラムのハイライトがリンク上に等しく分布された上で、選手は能力を示すべきである。

目的: リンク全体や、周囲の空間の高低を利用できているかを評価する。(アイスダンス:使った

音楽のテーマやコンセプトを発展させたプログラム、リンク全体や空間の高低を創造的に利用しているカップルを評価する。)

- 基準:
- 調和のとれたプログラム構成
 - 創造性と独創性(アイスダンス)
 - 要素やステップ、動きの音楽との一致
 - プログラムパターンの独創性や難しさ、多様さ
 - ハイライトの分布
 - 空間とリンクの利用

曲の解釈

定義: 選んだ音楽の雰囲気と特徴を外に表現する体の使い方とスケート要素。

目的: 技術要素やつながりのステップ、振付けを駆使して選んだ音楽を構成していき、その雰囲気と印象、特徴を表現しているかを評価する。

- 基準:
- 音楽に合わせる楽な動きと確実さ
 - 音楽のフレーズを表現する巧みさと微妙さ (アイスダンスでは、これにアクセントと調子の変化)
 - 音楽のスタイルと特徴の表現
 - 全体のプログラムを通して音楽の特徴を表現すること
 - タイミング(オリジナルダンスとフリーダンスのみ)

タイミング(コンパルソリーダンスのみ)

- 基準:
- 音楽に合わせたスケーティング
 - 強拍でのスケーティング
 - 助走のステップ

付録 C: 教育セミナー

ジャッジの推薦

加盟国ごとのジャッジの数は、2003 ネーベルホルン杯と 2003-04GP 大会でエントリーが予想される選手の数を表した統計表に基づいている。

加盟国から選ばれたジャッジには、可能ならば「ISU ジャッジ」の資格を与えるが、少なくとも国際ジャッジの資格はある。フィギュアスケートとアイスダンス両方の資格があるジャッジは、セミナーへの推薦に優先権が与えられるべきである。

欠員が出た場合に、加盟国は追加の申し込みができる。

国名	ジャッジの数	コメント
オーストリア	2	1人はアイスダンスの資格があること

アゼルバイジャン	2	1人はアイスダンスの資格があること
ベラルーシ	1	
ベルギー	1	
ブルガリア	2	1人はアイスダンスの資格があること
カナダ	8	少なくとも4人はアイスダンスの資格があること
中国	4	1人はアイスダンスの資格があること
クロアチア	1	
チェコ	2	1人はアイスダンスの資格があること
デンマーク	1	
北朝鮮	1	
エストニア	2	1人はアイスダンスの資格があること
フィンランド	3	1人はアイスダンスの資格があること
フランス	8	3人はアイスダンスの資格があること
グルジア	1	
ドイツ	6	少なくとも3人はアイスダンスの資格があること
イギリス	4	1人はアイスダンスの資格があること
ハンガリー	3	1人はアイスダンスの資格があること
イスラエル	2	1人はアイスダンスの資格があること
イタリア	5	2人はアイスダンスの資格があること
日本	8	少なくとも4人はアイスダンスの資格があること
ラトビア	1	
リトアニア	1	
オランダ	1	
ノルウェー	1	
ポーランド	4	1人はアイスダンスの資格があること
韓国	2	1人はアイスダンスの資格があること
ルーマニア	1	
ロシア	8	少なくとも4人はアイスダンスの資格があること
セルビア・モンテネグロ	1	
スロバキア	2	1人はアイスダンスの資格があること
スロベニア	1	
スウェーデン	1	
スイス	3	1人はアイスダンスの資格があること
ウクライナ	4	2人はアイスダンスの資格があること

アメリカ	8	少なくとも4人はアイスダンスの資格があること
ウズベキスタン	1	

付録 D: 任命される審判

テクニカルコントローラー

- 選出対象:
- 技術委員
 - 現任の ISU または国際レフェリー

- 特徴:
- 演じられた要素の宣言と入力を監督する
 - 演じられた要素の正しいレベルの宣言と入力を監督する
 - (例えば回転不足のジャンプなど)ガイドラインに沿った正しい要素の宣言と入力を監督する
 - 「追加要素」の削除を管理する
 - 「間違った要素」の採点を管理する
 - 禁止されている要素の繰り返しを管理する
 - イベントレビューミーティングの司会をする(現在の規定の適用やその正当性に関してジャッジの間にフィードバックし、またスケートの質について議論する目的)
 - ボーナス要素の確認や削除をする

テクニカルスペシャリスト(コーラー)

- 選出対象:
- フィギュアスケート・ペアスケート・アイスダンスについて高い知識を持ち、どのような資格でも日常的にこれらの分野で仕事をしている者
 - 国内最高レベルの、あるいは国際レベルの元スケート選手

注意: 現役選手を指導している国際的なコーチは、競技会でその選手がエントリーしている種目のテクニカルスペシャリストにはなれない。競技会のある種目の競技者を指導している国際的なコーチは、別の種目でテクニカルスペシャリストになってもよい。

- 特徴:
- 演じられた要素を判定し宣言する
 - 演じられた「レベル」を判定し宣言する
 - 回転不足や(ペアで)パートナーとの間で要素が異なるなどの場合に、「訂正した要素」を判定し宣言する
 - 追加要素を再確認する
 - 「誤った要素」を再確認する
 - 禁止されている要素の繰り返しを再確認する
 - 要素のボーナスを判定する

ジャッジズコーディネーター

選出対象: • 現任の ISU または国際ジャッジ(競技会のレベルによる)

特徴: • ジャッジ団長としての義務を遂行する。例えば輸送、書類事務、スケジュールなど。そしてジャッジの監督
• 演技の間、現在の規則のように、中断などについてレフェリーの義務を遂行する
• 時間の超過・不足を判定する
• フィギュアスケートでヴォーカル音楽の違反を判定する
• コスチュームや小道具の減点について判定し決定する

(ジャッジズコーディネーターも競技を採点し、公式記録には数えられないが自分の記録をつけておく)

イベントレフェリー

選出対象: • 技術委員
• 現任の ISU または国際レフェリー・ジャッジ

特徴: • 現在ある規則に従って大会の責任を負う
• すべての抽選などの司会をする
• ジャッジ団の監督をする
• 大会幹事との調整をする

付録 E: 算定の基本原理(シングル・ペア)

- a. テクニカルスペシャリストがすべての要素の名前と(必要ならば)レベルを判定する。
- b. この判定に従ってすべての要素は配点表に示されているそれぞれの基礎点が与えられる。
- c. ジャッジはそれぞれの要素に対して演技の質を 7 段階で判定する。各段階には配点表に示されている演技点がある。
- d. ジャッジ団としての演技点が、各ジャッジが出した演技点を中間平均して決められる。
- e. 中間平均は、演技点の最高と最低から同じ数ずつ削除し、残りを平均して算定する。
- f. このために、ジャッジ団が 9 人または 8 人の場合は 4 つの演技点を、7 人から 5 人の場合は 2 つの演技点を削除する。
- g. ジャッジ団としての演技点は、切り捨てで小数点以下 2 桁にする。
- h. 各要素に対する審判団の点数は、要素の基礎点に演技点の中間平均を加えて決められる。
- i. ジャンプコンビネーションは 1 つの要素として評価され、基礎点は含まれるジャンプのものを足し合わせ、演技点は最も難しいジャンプの基準を適用する。
- j. ジャンプシークエンスは 1 つの要素として評価され、基礎点は含まれるジャンプのものを足し合わせ、演技点は最も難しいジャンプの基準を適用し、その結果に 0.8 をかける。

- k. すべての要素に対する審判団の採点が加算される。
- l. 追加要素や指定された数を超える要素は結果に数えられない。どの要素も最初の(あるいは許された数の)試技だけ考慮に入れられる。
- m. 新しい要素や動き、つなぎに対しては、2 点の特別ボーナスが認められる。ボーナスは 1 つのプログラムの間に 1 度だけ得られる。ボーナスはテクニカルスペシャリストによって判定される。
- n. ボーナスは(もし得られれば)審判団の全要素の合計点に加えられる。
- o. シングルのフリーでは、後半に入れられたすべてのジャンプの点数は、特別な係数 1.1 をかける。これは要素を均一に配置するという難しさに対して功績を与えるためである。
- p. プログラムの終わりに各ジャッジは、全体の基準について点数を付ける。プログラム構成要素と呼ばれるこれらには、スケート技術、要素のつなぎ、演技力、振付け、曲の解釈がある。値は 0.25 きざみで 0 から 10 の範囲でつける。
- q. 各構成要素に対するジャッジ団としての採点は、その構成要素に対するジャッジの採点を中間平均して算定する。中間平均は上に書いた方法で算定される。
- r. 各構成要素に対するジャッジ団としての採点は、それから次の係数をかける(ジュニア、シニアとも同じ)。

男子: SP:1.0 FS:2.0

女子: SP:0.8 FS:1.6

ペア: SP:0.8 FS:1.6

結果は切り捨てで小数点以下 2 桁にする。結果には 5 つの構成点がある。

- s. 違反に対しては減点が次のように適用される。
 - 時間…不足または超過に対しては 5 秒ごとに 1.0
 - 音楽…ヴォーカル音楽に対しては 1.0
 - 要素…違法な要素に対してはそれぞれ 2.0
 - 衣裳や小道具…1.0
- t. 最終的な得点は、全要素の合計点と 5 つの構成点を足し、あれば減点もして算定する。
- u. ショートとフリーの得点を足し、結果が、ある競技会における一選手の最終的な得点となる。最終合計点の最も高い選手が 1 位などとなる。
- v. どのような局面でも同点となった場合は、最後の競技の得点が高い方が上位となる。

減点

現在の規定に従って、上の s. で述べた値を減点する。

ある競技での同点

2 人以上の選手が同じ結果になれば、ショートでは要素の合計点で、フリーでは 5 つの構成点の合計で決着をつける。これらの結果がまた等しければ、その競技者は同位とみなされる。

全体の結果の同点

フリーの結果で決着をつける。

最初の競技者についての構成点の中間点

それぞれの競技で最初のプログラムの後、ジャッジは 5 つの構成点を入力し、5 つの中間点を(それぞれの基準に対して別々に)受け取る。これらの中間点は、ジャッジ団全員の得点を用いて算定する。

付録 E: 算定の基本原理(アイスダンス)

- a. テクニカルスペシャリストがすべての要素の名前と(必要ならば)レベルを判定する。
- b. この判定に従ってすべての要素は配点表に示されているそれぞれの基礎点が与えられる。
- c. ジャッジはそれぞれの要素に対して演技の質を 7 段階で判定する。各段階には配点表に示されている演技点がある。
- d. ジャッジ団としての演技点が、各ジャッジが出した演技点を中間平均して決められる。
- e. 中間平均は、演技点の最高と最低から同じ数ずつ削除し、残りを平均して算定する。
- f. このために、ジャッジ団が 9 人または 8 人の場合は 4 つの演技点を、7 人から 5 人の場合は 2 つの演技点を削除する。
- g. ジャッジ団としての演技点は、切り捨てで小数点以下 2 桁にする。
- h. 各要素に対する審判団の点数は、要素の基礎点に演技点の中間平均を加えて決められる。
- i. すべての要素に対する審判団の採点が加算される。
- j. 追加要素や指定された数を超える要素は結果に数えられない。どの要素も最初の(あるいは許された数の)試技だけ考慮に入れられる。
- k. プログラムの終わりに各ジャッジは、全体の基準について点数を付ける。プログラム構成要素と呼ばれるこれらには、コンパルソリーダンスではタイミングと演技力、曲の解釈が、オリジナルダンスとフリーダンスではスケート技術、要素のつながり、演技力、振付け、曲の解釈がある。値は 0.25 きざみで 0 から 10 の範囲でつける。
- l. 各構成要素に対するジャッジ団としての採点は、その構成要素に対するジャッジの採点を中間平均して算定する。中間平均は上に書いた方法で算定される。
- m. 各構成要素に対するジャッジ団としての採点は、それから次の係数をかける(ジュニア、シニアとも同じ)。

コンパルソリーダンス:	タイミング	1.0
	演技力	0.5
	曲の解釈	0.5
オリジナルダンス:	スケート技術	1.0
	要素のつながり	1.0
	演技力	0.75
	振付け	0.75
	曲の解釈	1.5
フリーダンス:	スケート技術	1.5
	要素のつながり	1.5
	演技力	1.5
	振付け	2.0
	曲の解釈	1.5

- n. 違反に対しては減点が次のように適用される。
 - 時間・・・不足または超過に対しては 5 秒ごとに 1.0
 - 要素・・・違法な要素に対してはそれぞれ 2.0

衣裳や小道具・・・1.0

5秒を超える中断・・・プログラムの10%を失うごとに1.0

- o. 最終的な得点は、全要素の合計点と構成点を足し、あれば減点もして算定する。
- p. コンパルソリーダンスとオリジナルダンス、フリーダンスの得点を足し、結果が、ある試合における一選手の最終的な得点となる。最終合計点の最も高い選手が1位などとなる。2つのコンパルソリーダンスがある場合、各ダンスの合計点は0.5の係数をかける。
- q. どのような局面でも同点となった場合は、最後の区分の得点が高い方を上位に置く。2つのコンパルソリーダンスが行われた場合、両ダンスの価値は等しい。2番目のダンスでタイムブレークの基準はない。

減点

現在の規定に従って、上の n. で述べた値を減点する。

ある区分での同点

2組以上のカップルが同じ結果になれば、コンパルソリーダンスでは要素の合計点で、オリジナルダンスとフリーダンスでは5つの構成点の合計で決着をつける。これらの結果がまた等しければ、そのカップルは同位とみなされる。

全体の結果の同点

フリーダンスの結果で決着をつける(上の q. を見よ)。

最初のカップルについての構成点の中間点

それぞれの区分で最初のプログラムの後、ジャッジは5つの構成点を入力し、5つの中間点を(それぞれの基準に対して別々に)受け取る。これらの中間点は、ジャッジ団の全員の得点を用いて算定する。

付録 F: ウェルバランスプログラム(シングル)

定義: ジャンプ要素

ジャンプ要素は、単独ジャンプ、ジャンプコンビネーション、ジャンプシーケンスとして定義される。

シングルプログラムには次が要請される。

男子ジュニア・フリー

- ジャンプ要素は最大8つ(アクセル系のジャンプを含む)。
- スピンは最大3つ。1つはコンビネーションスピン、1つはフライングスピン、1つは同じポジションでのスピン。
- ステップシーケンスは最大2つ。1つは「ムーヴズインザフィールド」を含む。

男子シニア・フリー

- ジャンプ要素は最大8つ(アクセル系のジャンプを含む)。

- スピンは最大 4 つ。1 つはコンビネーションスピン、1 つはフライングスピン、1 つは同じポジションでのスピン。
- ステップシークエンスは最大 2 つ。1 つは「ムーヴズインザフィールド」を含む。

女子ジュニア・フリー

- ジャンプ要素は最大 7 つ(アクセル系のジャンプを含む)。
- スピンは最大 3 つ。1 つはコンビネーションスピン、1 つはフライングスピン、1 つは同じポジションでのスピン。
- ステップシークエンスは最大 2 つ。1 つはスパイラル。

女子シニア・フリー

- ジャンプ要素は最大 7 つ(アクセル系のジャンプを含む)。
- スピンは最大 4 つ。1 つはコンビネーションスピン、1 つはフライングスピン、1 つは同じポジションでのスピン。
- ステップシークエンスは最大 2 つ。1 つはスパイラル。

注意

フリープログラムのジャンプコンビネーションとジャンプシークエンス

ジャンプコンビネーションは同じジャンプか、または他のダブル、トリプル、クワッドジャンプとで成り立っている。フリーでは、ジャンプコンビネーション、またはジャンプシークエンスは 2 つまででよい。1 つのジャンプコンビネーションは 3 つまでのジャンプ、もう 1 つは 2 つまでのジャンプで構成してよい。

ジャンプの値は加算するだけで、係数をかけない。

ジャンプコンビネーションでは、1 つ目のジャンプで着地した足が 2 つ目の踏み切りの足になる。同じことが 3 つ目のジャンプにも当てはまる。ジャンプの間に片足でスリーターンした場合、フリーレグが氷面に触れていなければ、このシステムの定義ではコンビネーション(ただしエラー)と呼ぶことを許す。しかし、このターンでフリーレグが氷面に触れたら、この要素はジャンプシークエンスとなる。ジャンプコンビネーションは、個別のジャンプとしてではなく、「1 つの要素」として採点される。結果に算定される演技点は、値の最も高いジャンプに関連する。

ジャンプシークエンス

ジャンプシークエンスは、含まれるジャンプのうち最も難しい 2 つの値(調整した基礎点)を足し、合計に 0.8 をかけて評価される。

1 つのジャンプシークエンスにはジャンプがいくつあってもよい。ジャンプの間にはターンや簡単なジャンプがあってもよいが、ストロークはいけない。前のジャンプの着地から次のジャンプの入りまでに、氷上で 1 回転だけは許される。

ジャンプシークエンスは、個別のジャンプとしてではなく、1 つの要素として評価される。結果に算定される演技点は、値の最も高いジャンプに関連する。

繰り返し

フリーでは3回転以上のジャンプを2つだけ繰り返すことができる。ただし、それはジャンプコンビネーション、またはジャンプシークエンスでなければならない。

繰り返された3回転または4回転の、ジャンプコンビネーションやジャンプシークエンスに含まれていない単独ジャンプは、(単独ジャンプとしては)余分なものとしてみなされ数えられないけれども、実行したが成功しなかったジャンプコンビネーションの一部とみなし、1つだけが実行されたコンビネーションジャンプとして数えることができる。ジャンプコンビネーションとジャンプシークエンス(合わせて)2つが既に行われていたならば、繰り返された単独ジャンプは追加要素として扱われ、それゆえに考慮に入れられない。

追加要素

追加要素や上に書いた数を超える要素は結果に数えられない。そのような要素は最初の(あるいは許される数の)試技だけ考慮に入れられる。

スピン

スピンの回転数は限られていないが、3回転に満たない個別のスピンは、スピンではなくスケートイングの1つの動きとしてみなされる。

ショートプログラム(シングル)

現在の通り。

追加されたムーヴズインザフィールド

(男子フリーで)ステップシークエンスに統合されないムーヴズインザフィールドは「要素のつながり」の中で考慮に入れられる。

付録F: ウェルバランスプログラム(ペア)

ペアジュニア・フリー

- 最大3つのリフト、そのうち1つはグループ3または4でなければならない
- 最大1つのツイストリフト
- 最大2つの異なったスロージャンプ
- 最大1つのソロジャンプ
- 最大1つのジャンプコンビネーションまたはジャンプシークエンス
- 最大1つのソロスピンまたはソロスピンコンビネーション
- 最大1つのペアスピンまたはペアスピンコンビネーション
- 最大1つのデススパイラル
- 最大1つのステップシークエンス
- 最大1つの、スパイラルか、イナバウア、スプレッドイーグル、または他のムーヴズインザフィールドのシークエンス

ペアシニア・フリー

- 最大3つのリフト、そのうち1つはグループ3または4でなければならない
- 最大1つのツイストリフト
- 最大2つの異なったスロージャンプ
- 最大1つのソロジャンプ
- 最大1つのジャンプコンビネーションまたはジャンプシークエンス
- 最大1つのソロスピンコンビネーション
- 最大1つのペアスピンコンビネーション
- 最大2つの異なったデススパイラル
- 最大1つのステップシークエンス
- 最大1つの、スパイラルか、イナバウア、スプレッドイーグル、または他のムーヴズインザフィールドのシークエンス

注意

ショートプログラム(ペア)
現在の通り。

ジャンプコンビネーション

ジャンプコンビネーションは同じジャンプか、または他のダブル、トリプル、クワッドジャンプとで成り立っている。ジャンプコンビネーションは2つだけのジャンプで構成してよい。

ジャンプコンビネーションでは、1つ目のジャンプで着地した足が2つ目の踏み切りの足になる。ジャンプコンビネーションは、個別のジャンプとしてではなく、「1つの要素」として採点される。結果に算定される演技点は、値の最も高いジャンプに関連する。

ジャンプシークエンス

ジャンプシークエンスは、含まれるジャンプのうち最も難しい2つの値(調整した基礎点)を足し、合計に0.8をかけて評価される。

1つのジャンプシークエンスにはジャンプがいくつあってもよい。ジャンプの間にはターンや簡単なジャンプがあってもよいが、ストロークはいけなない。前のジャンプの着地から次のジャンプの入りまでに、氷上で1回転だけは許される。

ジャンプシークエンスは、個別のジャンプとしてではなく、1つの要素として評価される。結果に算定される演技点は、値の最も高いジャンプに関連する。

キャリー

現在「デスマウント」と呼ばれるキャリーは、許される数のリフト(最大3)に含まれる。このようなリフトは1つだけ行うことができる。単にキャリーと呼ばれるものは、限られた数のリフトには含まれず、「要素のつなぎ」の中で考えられる。これらのリフトには基礎点がない。

新要素

新しい要素や、存在する要素による独自のコンビネーションが、述べられたような全体の基準を超えることはない。しかし、それらによって、特別な価値を受け取ることができる。例えば、a) 存在

するリフトからすぐにデスピラルに入る、b)リフトの着地からスロージャンプ、c)存在するソロ
スピンからペアスピン、など。

追加要素

追加要素や上に書いた数を超える要素は結果に数えられない。そのような要素は最初の(あるいは許される数の)試技だけ考慮に入れられる。